

## 令和 6 年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

学校の現状を踏まえ、今年度は三つの項目について重点課題、目標を設定し、取り組んだ。各重点課題の評価は次のとおりである。

#### (1) 学習活動「キャリア教育を充実させた学習活動～キャリア・パスポートの作成を通して～」

進路指導部作成の様式を参考に作成し、ファイルに綴じて蓄積した。生徒一人一人に設定した年間目標から関連付けて行事ごとの目標を個別に設定し、振り返りは集団で行った。取組の前に、教員間でもキャリア教育のねらい等について再確認を行った。また、キャリア・パスポートの作成過程において生徒の変容や成長を振り返る場を各学年で設けて意見交換し、その後学部全体で共有した。いずれも目標回数を達成することができた。

「目標設定－実践－振り返り」を繰り返す中で生徒自身が目標を考えて実践し、友達の頑張りを知って次の目標に生かすなど、具体的に変化する成果が見られた。

#### (2) 学校生活「健康で安全な生活の実現を目指した健康教育の充実」

児童生徒に身近で必要な内容を取り上げ、クイズや実技等で楽しく学べるように工夫して目標回数以上の集会を行った。集会後は、児童生徒の健康で安全な生活に関する興味・関心が高まり、生活年齢や実態に合わせた目標を決めてチャレンジ週間に取り組んだ。その様子をプリントにまとめて保護者に伝え、チャレンジカードは廊下に掲示した。取組の結果、学んだことを生活につなげる様子が見られた。

#### (3) その他「授業にICT機器を効果的に活用するための取組」

ICT機器の体験研修会や、簡易操作マニュアルを作成、添付し、各学部を巡回してICT機器（VRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類）の展示・体験を行い、授業担当者が操作に慣れるまで、授業に参加してサポートを行った。結果、多くの教員が参加して学び、VRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類などのICT機器を活用した授業を児童生徒の実態に応じて行うという成果を得られた。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

(1) キャリア・パスポートを作成する過程において、生徒が自己の生き方や進路について主体的に考えることができる授業実践と自身の変容や成長をより実感できる取組をめざし、教師がキャリア教育の基礎的・汎用的能力を理解して目標設定、実践、評価を繰り返すことが必要である。

(2) 児童生徒の実態に応じた健康教育を継続し、指導方法を工夫して学習を積み重ね、その内容を生活につなげるために、家庭と連携しながら取り組むことが大切である。

(3) ICT機器には、多くの機種やアプリがあり、工夫次第で様々な方法で活用することができる。児童生徒の実態に応じた活用ができるように研修会や巡回展示、学習コンテンツの提供、活用の事例の共有など、教員のスキルを高められる取組が今後も必要である。

(様式5)

8 学校アクションプラン達成度等

令和6年度高志支援学校アクションプラン - 1 -		
重点項目	学習活動 - 高等部 -	
重点課題	キャリア教育を充実させた学習活動 ~キャリア・パスポートの作成を通して~	
現 状	<ul style="list-style-type: none"><li>・高等部においてキャリア教育に関する取り組みは、2、3学年対象の就業（生活）体験を柱に捉えて行っている。体験前の壮行会や体験後の報告会に関連して、目標設定や振り返りを行い、主体的に自分の進路について考える機会としている。体験後は、体験で得られた成果と課題を教師、本人、保護者で共通理解を図り、必要な力の育成を日々の学習に落とし込んでいくようにしている。</li><li>・体験のない1学年の生徒は、壮行会や体験後の報告会を通して就業（生活）体験について学び、次年度からの体験に備えている。I課程の進学希望の生徒には、単なる進学指導に終始するのではなく、進学の目的を考える中で自己理解や課題対応能力が高まるようにしている。</li><li>・キャリア教育に関する目標設定や振り返りは、ワークシートに記録したり、タブレット端末を使って動画や写真を用いたりする等、学級や教育課程によって様々な方法で行っている。しかし、それらを蓄積し、学習に活用したり、教員間で共有したりしていない。</li></ul>	
達成目標	キャリア・パスポートを作成して、自身の変容や成長を振り返る回数	生徒一人当たり 6回以上
	キャリア・パスポート作成に関する教員間の共通理解の回数	3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"><li>・進路指導部が作成したキャリア・パスポートの内容を活用し、学年、教育課程で設定されたシートを利用する。</li><li>・教科学習を含め学校行事（運動会、学習発表会）、就業（生活）体験等において生徒一人一人の実態に応じた目標設定や振り返り方を工夫する。</li><li>・キャリア・パスポート作成過程において生徒の変容や成長を振り返ると共に作成及び活用方法や成果課題について意見交換を行う。</li></ul>	
達成度	キャリア・パスポートを作成して、自身の変容や成長を振り返る回数	生徒一人当たり 7回以上
	キャリア・パスポート作成に関する教員間の共通理解の回数	4回
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"><li>・進路指導部作成のキャリア・パスポートの内容を活用し、年間を通して計画的に実施した。キャリア・パスポートの内容を参考に、実態に応じて様式を変更しながら行い、ファイルにとじて蓄積した。</li><li>・生徒一人一人の実態に応じて年間目標を設定し、行事ごとの目標は、そこから関連付けて設定した。目標設定は個別で行い、振り返りは、友達の話の聞いたり画像を見たりするなど集団で行った。</li><li>・教員間の共通理解として、最初にキャリア教育のねらい等の学習会を行った。作成過程において、学年ごとに生徒の変容や成長を振り返る場面を設定し、作成及び活用方法や成果課題について意見交換を行い、その後、学部全体で情報共有を行った。</li></ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"><li>・年間を通して「目標—実践—振り返り」を繰り返し実施することで、生徒が考える目標や反省の内容が、より具体的に変化していった。</li><li>・振り返りを丁寧に行うことで、次の目標を生徒自身で考えるようになったり、友達の目標や頑張りを聞いて自分の目標に生かしたりする場面も見られた。</li></ul>
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後もキャリア・パスポートを作成していく中で、生徒が主体的に考え、振り返りの際には、教師が生徒の思いを引き出す工夫をしてほしい。</li></ul>	
次年度に 向けての 課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・キャリア・パスポートを作成する過程において、生徒が自己の生き方や進路について主体的に考えることができるような授業の実践、自身の変容や成長をより実感できるような取組が必要である。</li><li>・教師がキャリア教育の基礎的・汎用的能力を理解して目標設定、実践、評価を繰り返すことが必要である。</li></ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度高志支援学校アクションプラン - 2 -

重点項目	学校生活 ー保健部ー	
重点課題	健康で安全な生活の実現を目指した健康教育の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校では、学級活動や保健体育等の授業において、健康・安全な生活に関する指導を行っている。児童生徒の健康や安全な生活に対する関心や知識は、一人一人の障害の状況や実態により様々である。</li> <li>・昨年度は、日々の熱中症指数や県の感染状況マップを掲示し、児童生徒に健康管理に関する注意喚起を行った。また、「歯と口の健康週間」や「給食週間」に合わせて、図書や映像資料などを展示して貸出しを行ったり、ポスターや標語を募集したりすることで、多くの児童生徒が興味・関心をもって学習する様子が見られた。</li> <li>・児童生徒が、望ましい生活習慣について学び、日常生活の中で健康で安全な生活を目指して取り組むことができるよう、生活年齢や実態に合った指導の工夫が求められる。</li> </ul>	
達成目標	健康で安全な生活に関する集会の実施	各学部 2回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健集会を行い、健康で安全な生活に興味関心をもてるようにする。その後、チャレンジ週間を設け、意識して取り組めるようにする。 (集会のテーマ：例「丈夫な歯を作ろう」「規則正しい生活と健康」)。</li> <li>・本校にある健康で安全な生活に関する教材・教具、掲示物、図書などについての情報提供を行う。貸出しを行い、各学級での指導で活用できるようにする。</li> <li>・保健集会や教材等に関する情報提供を行った後、教員を対象にアンケートを行い、児童生徒の様子の変化や感想、次年度への要望等を把握する。</li> </ul>	
達成度	「歯と口の健康」「感染症予防」をテーマとして健康で安全な生活に関する集会を実施	各学部 3回
具体的な 取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健集会を実施し、終了後にチャレンジ週間を設けた。また、チャレンジカードを用意して、児童生徒が集会で学んだことを基に目標をもって取り組めるようにした。</li> <li>・各学級での指導で活用できるように、本校にある教材や図書、歯科総合学院から借りた教具等を廊下に展示して貸出しを行った。</li> <li>・保健集会やチャレンジ週間での児童生徒の様子をプリントにまとめて保護者に配付した。また、チャレンジカード等を廊下に掲示して、取組の様子を紹介した。</li> <li>・チャレンジ週間終了後には、教員を対象にアンケートを実施し、児童生徒の様子や変容を把握し、次回の集会に向けて、実施内容や方法等を検討しながら取り組んだ。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健集会では、児童生徒に身近で必要な内容を取り上げ、クイズや実技等で楽しく学べるように工夫することで、意欲的に学ぶ姿が見られた。</li> <li>・保健集会後は、児童生徒の健康で安全な生活に関する興味・関心が高まり、生活年齢や実態に合わせた目標を決めてチャレンジ週間に取り組み、学んだことを生活につなげる姿が見られた。</li> </ul>
学校関係 者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だ液腺マッサージを進める際に気を付ける点や、体の変形や側わん症が顎関節や咬み合わせに及ぼす影響などについて、学校医に相談するとよい。取組の工夫により児童生徒は達成感や満足感を得て継続することができた。</li> </ul>	
次年度に向 けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も、児童生徒の実態に応じた健康教育を継続し、指導方法を工夫して学習を積み重ねていく必要がある。</li> <li>・学習した内容を生活につなげるために、家庭と連携しながら取り組むことが大切である。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

令和6年度高志支援学校アクションプラン - 3 -

重点項目	その他 -情報教育部-	
重点課題	授業にICT機器を効果的に活用するための取組	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの児童生徒は、タブレット端末に親しみ、音楽や動画を視聴したり、写真や動画を撮影したりして、授業等で活用しているが、その方法は限定されている。</li> <li>多くの教員が、児童生徒の障害の状況や実態に合ったICT教材をタブレット端末や執務用パソコンなどを利用して作成したいと思っている。</li> <li>障害のある児童生徒に対して有用なアプリケーションやICT機器は、多くあるが、その活用方法が周知されていないものが多く、それらを伝えることにより教員のICT活用能力が向上し、さらなる児童生徒の実態に合った活用が期待できる。</li> </ul>	
達成目標	・アプリケーションやICT活用に関する研修会に参加した教員の割合	90%以上
	・研修した内容を授業で活用した教員の割合	70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修したい内容（アプリケーション、ICT機器などの操作・活用方法など）を把握し、希望のあった内容の研修会を実施する。</li> <li>多くの児童生徒が気軽に体験できるように、また、教員が児童生徒に有用なICT機器（VRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類）を見付けることができるように、各学部の学習室に数週間ずつ巡回展示を行う。</li> <li>教員が作成したICT教材や活用しているアプリを一覧にして共有化を図る。教員相互で利用し合い、意見交換して研鑽できるようにする。</li> <li>12月にアンケートを実施し、授業での活用状況や児童生徒の変容について把握するとともに、次年度へのニーズを把握する</li> </ul>	
達成度	・アプリケーションやICT活用に関する研修会に参加した教員の割合	94%
	・研修した内容を授業で活用した教員の割合	70%
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>アプリケーション「google CANVA」の操作法、ICT機器「VRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類」の体験などの研修会を実施した。</li> <li>簡易操作マニュアルを作成し、ICT機器（VRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類）の展示・体験を各学部1週間ずつ巡回して行った。</li> <li>授業担当者がICT機器の操作に慣れるまで、情報担当者も授業に参加し、活用するサポートを行った。</li> </ul>	
評 価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の授業でのICT機器活用の意欲は高く、研修会には多くの教員が参加して操作方法を学んだ。</li> <li>多くの教員が、児童生徒の実態に応じてVRゴーグル、視線入力装置、スイッチ類などのICT機器を活用して授業を行った。</li> </ul>
学校関係者の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>VRゴーグルの画面共有で、視覚情報が共有でき、その共有感があることで、児童生徒の意欲も高められる。ICT機器の活用は、児童生徒にとって学びの成果を引き上げているので、身体的負担を配慮しながら継続するとよい。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用することで、児童生徒が意欲的に学ぶ姿が見られ、指導に有効である。ICT機器には、多くの機種やアプリがあり、工夫次第で様々な方法で活用することができる。児童生徒の実態に応じた活用ができるように研修会や巡回展示、学習コンテンツの提供、活用の事例の共有など、教員のスキルを高められる取組が今後も必要である。</li> </ul>	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)